

## 第5学年の取組

### (1) 実践内容「ふるさと甚目寺 ～われら産業調査隊～」

#### ① はじめに

5年生の総合学習では、地域の産業を教材とし、「われら産業調査隊」と題して、伝統工業を脈々と受け継いでいる方や、地域の商店街でがんばっている方、日本や世界に誇る技術をもった工場など、地域の方に協力していただき学習をすすめてきた。

本年度は、E S Dの大きな柱である人権教育とE S Dの連携をより強化し、コミュニケーションスキルの活用を通して、人とのかかわり合いを大切にしたE S Dの取組を行うこととした。その際に国語科との連携を図るとともに、学級・学年の仲間との人間関係づくりを重視したコミュニケーションスキルの習得も合わせて行っていきたいと考えた。

ア 伝統産業に携わっている方の出前授業を受けたり、地域の企業やお店、農家の方に合わせてインタビューしたりして、仕事をする様子を間近に見学することで、地域産業への興味関心を高める。

イ 道徳の授業を通して、協力することの大切さや郷土に誇る偉人の苦労や思いを伝える。

ウ 互いを認め合う姿勢を育てるために、友達の行動をよく観察し、「ほめ言葉のシャワー」を行う。

エ 国語科との連携を行ううえで、甚目寺小の「聞く・話す・話し合いの能力表と学習スキル」を見直し、インタビューの仕方や敬語の使い方などのコミュニケーションスキルの定着を図る。

#### ② 「ふるさと甚目寺 ～われら産業調査隊～」

##### ア 総合的な学習の時間

###### (ア) 甚目寺の伝統産業を知ろう (6月)

地元の産業を学習するにあたり、学年オリエンテーションを行い、昨年度の「環境学習」の中で自分たちが行った実践を振り返った。そして、今年度学習する甚目寺の産業について知っていることをウェビングマップに書き出した。その中で、地域の伝統産業として「刷毛」が挙げられた。そこで、甚目寺の伝統産業である「刷毛」についての出前授業を行った。3名の刷毛職人の方に来ていただき、歴史や刷毛の種類、作り方、引き継ぐ人がいない現状などのお話を聞いた。また、実際に作っているいろいろな種類の刷毛や、刷毛に使われているヤギやウマなどの動物の毛や植物由来の材料を見せていただいた。児童は「刷毛産業」の厳しい現状に触れ、甚目寺の伝統的な産業を残すためにはどうしたらよいか真剣に考えていた。



【刷毛の出前授業】

###### (イ) 甚目寺の主な産業を知ろう (6・7月)

6月初旬、甚目寺地区の産業についてオリエンテーションを行った。そして刷毛の出前授業を受け、伝統工業以外にどんな産業があるか、自分の興味のある店や工場についてインターネットを使って調べ学習を行った。その後、調べたことを話し合い、学級全体でミニ発表会①を行った。互いの発表を聞く中で、調べられなかったことやもっと詳しく知りたいことについて、実際にお店や工場に行き、働く人に直接インタビューをしたらどうかという意見が挙げられた。そこで、夏休みに「われら産業調査隊」の取材活動を行うこととした。



【ミニ発表会①】

取材活動をする上で必要な、インタビューの練習に関しては、国語の授業で行った。その授業については、この後の③E S D国語科「きいて きいて きいてみよう」(6/6)で述べる。

(ウ) 甚目寺の産業を調べようー取材活動を通してー (7・8・9月)

取材をするにあたり、疑問に思っていることや、インターネットでは調べることができなかった人の思いに関するを中心に質問を考えた。国語科の授業で学習したことを参考に、相手の人にさらに質問をして自分の理解を深めることや、相手の話を聞くときには、「目を見ること」、「うなづくこと」などの具体的な行動をとることも確認した。取材先では、商品の作り方、製造している部品などを見せていただき、疑問に思っていることやさらに知りたいことをインタビューする児童が多く見られた。また、お店の方の質問に対し、さらに深く質問する様子も見られた。このような児童の姿から、総合学習の取材活動においても、国語科で学習したことが大いに役立ったことがうかがえた。



【取材の様子】

(エ) 甚目寺の産業を調べようー調べたことを発信しようー (9・10・11月)

取材活動の後、9月にはミニ発表会②を行った。それぞれが調べてきたことを発表する中で、よかった点を認め合い、さらに取材が必要なことはないか話し合った。2度目の取材は児童自身が取材先に連絡をとり、自ら出向いて夏の取材活動では聞けなかった部分を補っていた。10・11月と発表準備を進め、取材先にも招待状を送り、11月には取材の成果を模造紙にまとめ、プレゼンテーション形式で発表した。



【総合学習発表会】

イ 道徳の授業

(ア) 「気持ちをカタチに」ーESD活動の中で協力し合う力をつけるためにー

野外活動を前に、協力して助け合うために相手を思いやる心(思いやり)を育てたいと考え、この授業を行った。自分の思いや気持ちは、行動(カタチ)にしてこそ相手に伝わるということを「ACジャパンの宣伝広告」を用いて伝えた。

(イ) 「後世に伝える 伝統の業」ー刷毛作りの名人山崎政三郎氏の思いに迫るー

刷毛の出前授業では、つかみきることができなかった「山崎政三郎さんの刷毛作りに対する思い」や「なぜ甚目寺に刷毛作りを伝えたのか」を彼の立場になって改めて考えさせたいと思い、この道徳の授業を設定した。授業の前半部分では、刷毛作りに対する山崎政三郎さんの思いについて考えさせ、後半部分では、前刷毛組合会長からのビデオメッセージを流して、現在刷毛作りを行っている人々の思いを考えさせグループで話し合わせた。児童からは、「甚目寺の刷毛作りを進歩させたい」「刷毛作りの跡継ぎになってくれる人を増やしたい」「後世の人に伝え、昔のように盛んになってほしい」という意見が聞かれた。刷毛の出前授業を通して、刷毛作りの技術を受け継いできた人の思いにも目を向けることが重要であると児童らは気づいたようであった。



【刷毛作りを行っている人について話し合う様子】

ウ 特別活動「ほめ言葉のシャワー」ー通年活動ー

毎日1人の主役児童を決め、その児童のがんばっていたところやよかったところを観察し、帰りの会で全員が発表する「ほめ言葉のシャワー」という取組を行っている。昨年度は一部の学級だけであったが、今年度は学年全体で取り組むことにした。学年目標「認め合う仲間」のもと、互いの個性や存在を認め合い、だれとでもよりよい人間関係を築くことができるようになることを目標とした。主役となった児童の行動を注意深く観察し、帰りの会のほめ言葉タイムでは、自分の一番伝えたいことを主役児童に伝えた。互いの発表を聞き合うことで、主役児童の新たなよい一面を見つけることにもなった。主役児童は、友達からの温かい言葉がけが自信となり、自分という存在は周りから認められているのだという自己肯定感をもてるようになってきた。また、相手に気持ちがよく伝わる発表の仕方を知ることが、「話す・聞く」姿勢にもつながっていると考える。今後は、「ほめ言葉のシャワー」を通して、主役児童のよいところを観察する力をさらに育てていきたい。

(参考 「ほめ言葉のシャワー」とは、教諭菊池省三先生が行っている取組である。)

### ③ ESD国語科「きいて きいて きいてみよう」(6/6)

本単元は、友達にインタビューを行い、友達のことについてさらに知ろうという単元であり、この単元で身につけたコミュニケーションスキルが、夏休みに行く取材活動に大いに生かすことができると考え、夏休みに入る直前に実施した。第1時は、「きく」という動作について考えさせた。第2時では、例文をもとに、聞き手・話し手・記録者の三人に分かれ、役割を交代しながら実際にインタビューの練習をした。第3時では、インタビューのグループ分けを行い、インタビューする質問の内容を考えさせ、第4時では、実際に3人グループになり、役割を交代しながらインタビューを行った。第5時では、自分が記録をした友達のインタビュー内容について報告をした。

#### ア 導入の様子

第6時では、第1～5時までの活動をふまえ、「きく」ということについて整理し、まとめた。また、インタビューをした際に気をつけたことやインタビュー内容の報告を聞いている際に気をつけたことを付箋紙に書き、グループごとにXチャートに分類させた。

#### イ 展開の様子

話し合いを進めていく中で、同じ言葉や似ている言葉に着目し、各グループで出た意見を短冊に書かせ、黒板に拡大Xチャートを完成させた。学級全体で改めて、そのチャートの中の同じ言葉や似ている言葉を発表させたところ、「相手」「目を見る」「うなずく」という言葉が出てきた。「きく」という行為については、必ず相手がいて、相手をもっと知りたいという意欲をもって話を聞く姿勢が大切であることをおさえた。総合学習で取り組む夏休みの取材活動では、礼儀正しく、相手のことを意識しながら、取材活動に臨む姿勢が大切であることを再確認した。



【拡大Xチャートを使つてのまとめ】

総合学習で取り組む夏休みの取材活動では、礼儀正しく、相手のことを意識しながら、取材活動に臨む姿勢が大切であることを再確認した。

取材活動の様子は、先の「②「ふるさと甚目寺 ～われら産業調査隊～」ア 総合的な学習の時間 (ウ) 甚目寺の産業を調べようー取材活動を通してー (7・8・9月) で述べている。

### ④ その後の活動

#### ア 甚目寺の産業を応援しようー「じもさん朝市」開催に向けてー (1・2月)

甚目寺観音で毎月12日に行われている「甚目寺観音てづくり朝市」に毎年出店しているが、今年度は日曜日と重なったため、甚目寺小学校内で「じもさん朝市」を行うために準備を進めている。朝市では、取材でお世話になった農家の方に譲っていただいた小松菜や方領大根、本校の中庭で実ったレモンやきんかんなどを販売する。また、自分たちが調べてきた産業の自慢できることを宣伝し、地域の方々との「かかわり合い」ができる機会を設けていきたいと考えている。現在そのためのPR活動として、ポスターを作ったり、ちらしを配ったりと、自ら活動を始めている。

## (2) 実践の成果と課題

1学期の初めに行った「気持ちをカタチに」という授業や、毎日行っているほめ言葉のシャワーの成果として、相手の立場に立って物事を考えたり、友達の存在を認めたりする姿勢が育ってきているように思う。出前授業「ハッピートークトレーニング」の際にも、互いを認め合う「ハッピーな言葉」をたくさん見つけることができた。

国語科で学習したことが、夏休みの取材活動の中で「相手の答えを聞いたり表情を見たりしながら質問をかえる」「その場で考え、聞き返す」ことに生かすことができていた。また、取材活動を通して、「ふるさと甚目寺」には誇れる店や工場があることを、身をもって実感することができた。それが、総合学習発表会で積極的に伝えるという児童の姿勢につながった。

しかし、夏休みの取材活動において、より深い質問を聞き返すといった判断ができる児童は多くはなく、質問をしながらメモをして、さらに質問をすることの難しさを実感した。取材からまとめまでの間が長く、せっかくの取材内容も発表原稿に生かしきれない児童もいた。甚目寺の産業について意欲的に調べ、発信することの大切さは分かっているが、それを踏まえて甚目寺の産業を応援するためにできることを具体的に考え、行動に移すには、教師側の支援が必要である。